

まちづくりに関する各種データ

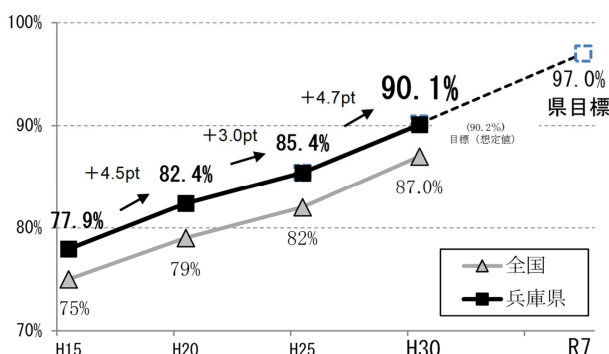
安全・安心

1

住宅の耐震化の状況



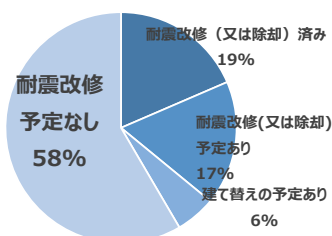
- ・耐震改修工事の実施、旧耐震基準の住宅が大幅な減少（除却・建替え）により、**住宅の耐震化率はおおむね順調に推移**
- ・一方、耐震診断・改修工事をしていない住宅の約2/3は60歳以上の世帯
費用負担を理由として、耐震改修工事を実施しない世帯も多い



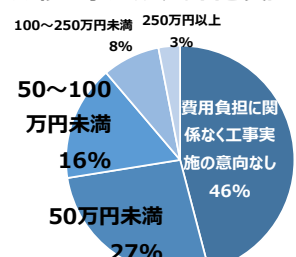
●住宅所有者アンケート

(対象：H30に簡易耐震診断を受けた方 n=188)

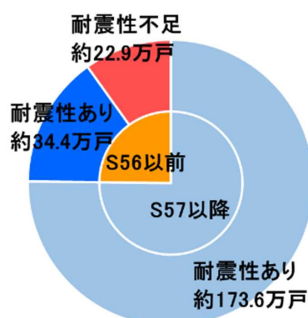
◆耐震改修工事の意向



◆耐震改修工事における自己負担の限度額



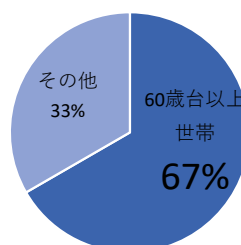
出典：「兵庫県耐震改修促進計画進捗状況① 住宅の耐震化施策」



●県民モニターアンケート (H30年度)

「防災に対する意識と取組み」

Q 耐震診断・耐震補強の実施状況

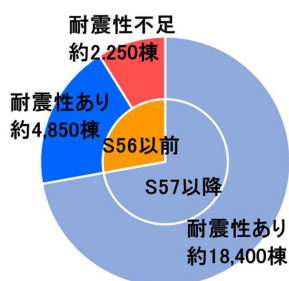
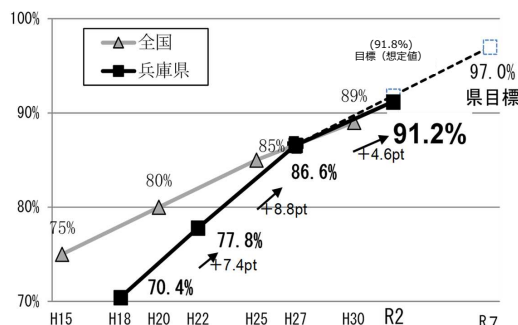


S56年5月以前着工の旧耐震基準の住宅で、**耐震診断や改修工事を実施していない世帯の約2/3が60歳以上の世帯**

2

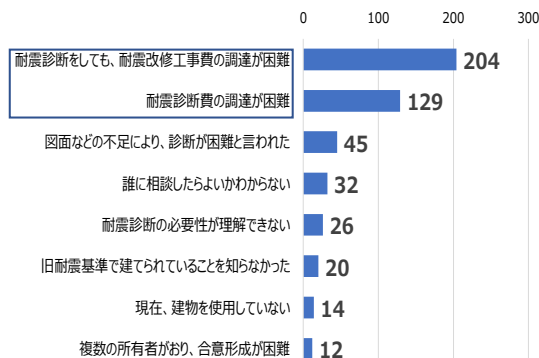
- ・各種耐震化補助事業の活用等により、学校・病院・福祉施設の耐震化が進展し、**多数利用建築物の耐震化率はおおむね順調に推移**
- ・一方、**費用負担が大きい**ため、**耐震改修の実施が困難な民間所有者も多い**（近年ではコロナ禍による経営不振も影響）

多数利用建築物の耐震化率

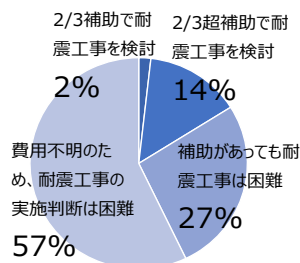


● 建築物所有者アンケート

◆ 耐震診断をしない理由 (n=378、複数回答可)



◆ 補助活用による改修工事の検討



出典：「兵庫県耐震改修促進計画進捗状況① 多数利用建築物・その他の施策」

3

頻発する豪雨水害の状況

- ・砂防事業などにより、自然災害への備えを進めているが、**台風や豪雨による甚大な被害が絶えない**

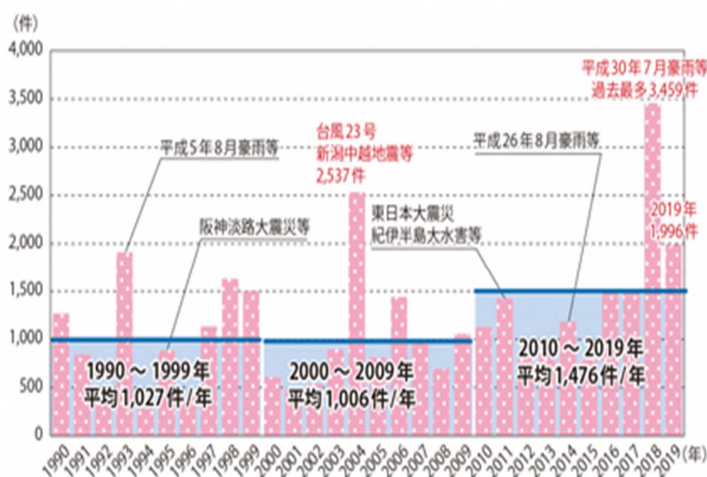
近年の主な台風や豪雨による被災状況

	人的被害 (人)	住家被害 (棟)
平成21年台風9号	29	2,939
平成25年台風18号	6	160
平成26年8月豪雨	6	1,951
平成29年台風18号	6	543
平成30年7月豪雨	13	890
平成30年台風21号	60	3,154

人的被害：死者、行方不明者、負傷者

住家被害：全壊、半壊、一部損壊、床上浸水、床下浸水

土砂災害の発生件数の推移 (全国)



資料) 国土交通省

出典：兵庫県HP、第4次山地防災・土砂災害対策計画

- ・ 本県では、約1,500km²を災害ハザードエリアに指定
- ・ 本県では、人口の47.4%（264万人）が災害リスクエリアに居住

※ 水防法改正(2015)による浸水想定区域の降雨条件の見直し（1/100年から1/1000年の確率）は未反映

○約1,500 km²を災害ハザードエリアに指定

エリア種別		面積（km ² ）
浸水		618
土砂災害警戒区域	急傾斜	180
	地すべり	27
	土石流	305
土砂災害特別警戒区域	急傾斜	44
	土石流	3
山腹崩壊危険地区		235
崩壊土砂流出危険区域		89
雪崩危険箇所		133
地すべり危険箇所		82
津波浸水		63
高潮		145
災害ハザードエリア合計 （うち市街化区域面積）		1,476 (321)

※ 災害ハザードエリアは、ハザードマップにおいて浸水想定（0m以上）、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、山腹崩壊危険地区、崩壊土砂流出危険区域、雪崩危険箇所、地すべり危険箇所、津波浸水、高潮のリスクがある地域。

出典：兵庫県資料

○約264万人が災害のおそれのあるエリアに居住

兵庫県の将来人口推計

	2015年	2050年
人口	553万人	432万人

兵庫県の4 災害影響人口

対象災害	リスクエリア内人口 (2015) (総人口に対する割合)	リスクエリア内人口 (2050) (総人口に対する割合)
洪水	178万人(32.1%)	142万人(32.9%)
土砂災害	34万人(6.2%)	23万人(5.4%)
地震 (震度災害)	163万人(29.5%)	134万人(31.0%)
津波	24万人(4.4%)	19万人(4.5%)
災害リスク エリア	264万人(47.4%)	209万人(48.3%)

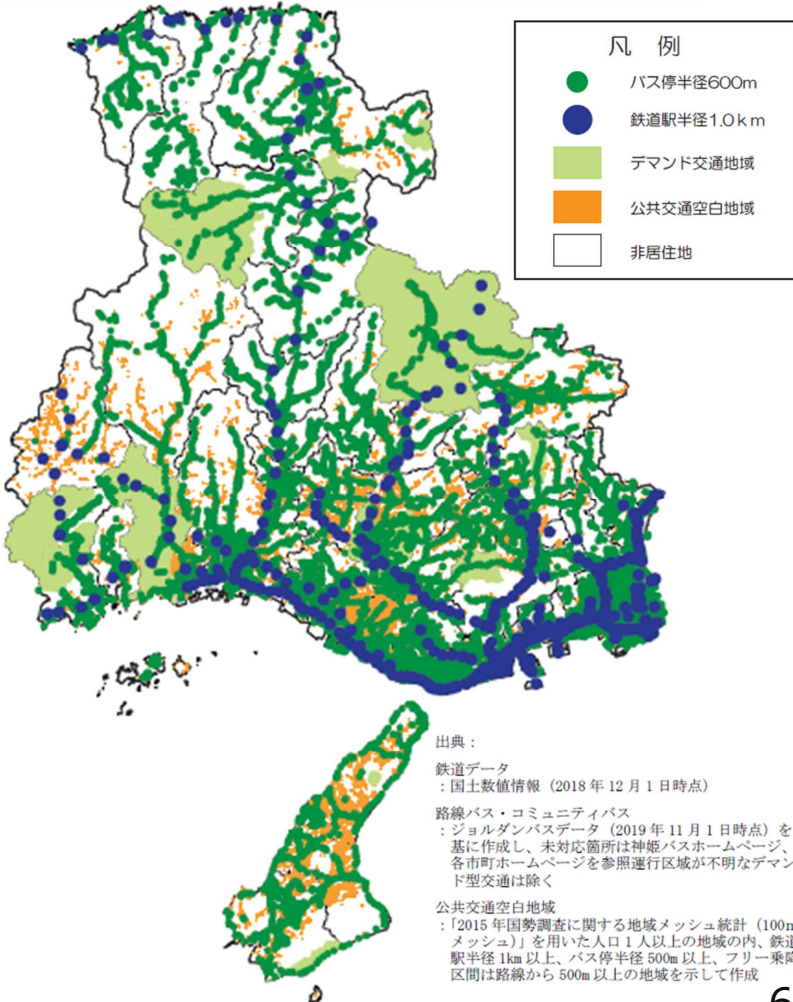
出典：国土交通省「都道府県別の災害リスクエリアに居住する人口について」

公共交通空白地の状況

- ・ 公共交通が利用しにくい地域（鉄道駅から1km圏外・バス停から500m圏外）の居住者は、約7.5万人から約17万人に増加
- ・ 淡路や播磨地域の内陸部等で公共交通空白地域が多く分布

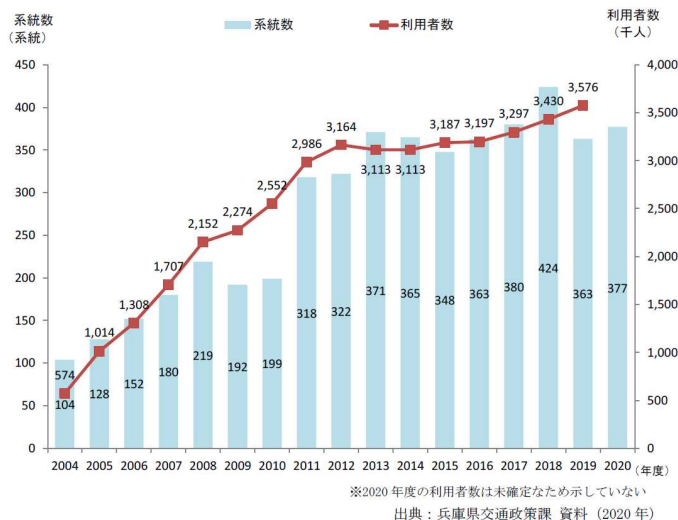
	兵庫県全体 (千人)	公共交通空白地域の 居住人口 (千人)	公共交通空白 地域の割合 (%)
平成25年 3月	5,588	75	1.3
令和3年 3月	5,531	169	3.1

※平成25年3月は、公共交通空白地域をバス停600m 鉄道駅1km圏外として算定



- ・ **コミュニティバスの利用者は年々増加**（約360万人/年、363系統（令和元年度））
一方、利用者が減少・低迷している市町もある
- ・ **不採算バス路線からのサービスの縮小・撤退に伴う補完のため、走行距離は伸びているが、行政からの公的負担が増加**

■ コミュニティバス輸送実績の推移（兵庫県）



■ コミュニティバスに対する行政の支援状況（兵庫県）



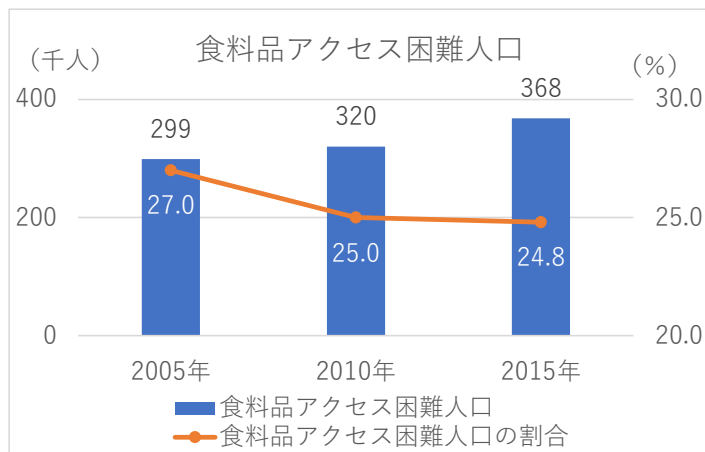
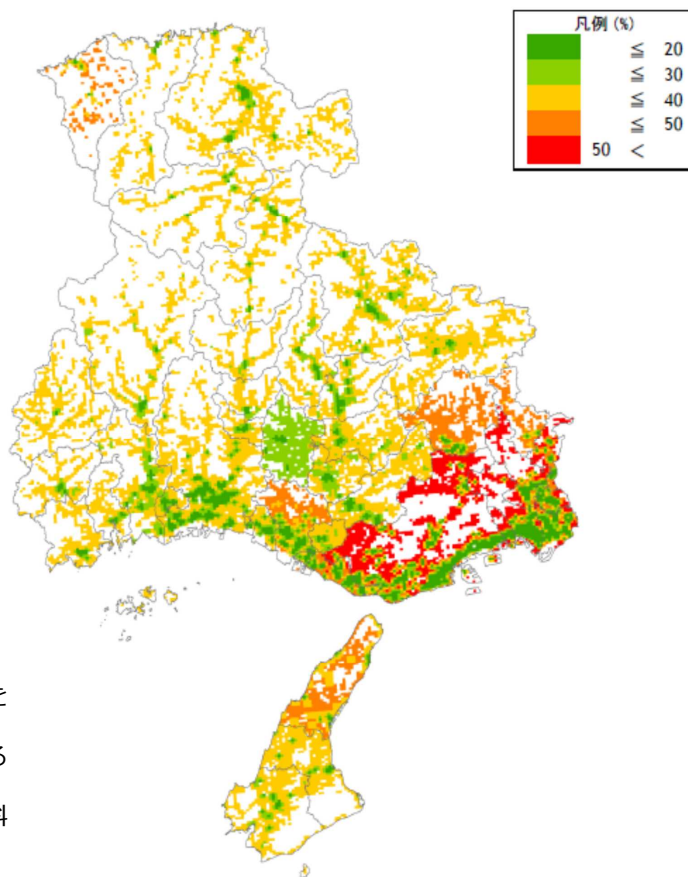
出典：ひょうご公共交通10カ年計画（2021-2030）

7

生活利便施設（食料品店舗）へのアクセス

- ・ **高齢者の4人に1人が食料品等の買い物が困難**
- ・ 人口は5年間で約48,000人増加

食料品アクセス困難人口の割合（2015年）



- 注1 アクセス困難人口とは、店舗まで500m以上かつ自動車を利用できない65歳以上の高齢者を指す。
 注2 アクセス困難人口の割合とは、65歳以上人口全体に占めるアクセス困難人口の割合を表す。
 注3 店舗は生鮮食料品販売店舗、百貨店、総合スーパー、食料品スーパー、コンビニエンスストアである。

出典：農林水産生産研究所 食料品アクセスマップ

8

まちづくりに関する各種データ

魅力・挑戦

9

重要伝統的建造物群保存地区（龍野地区）



- ・市民出資会社等が行政や自治組織と連携しながら、町家のリノベーションやイベントを行うなど、持続可能なまちなみの保全が進行

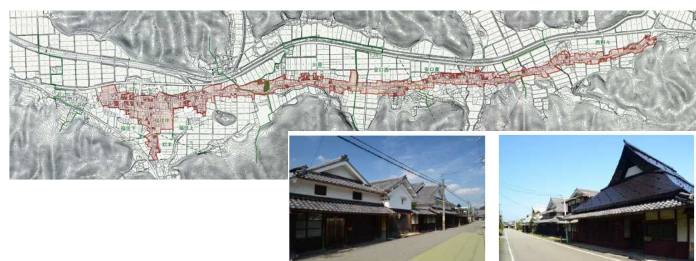


10

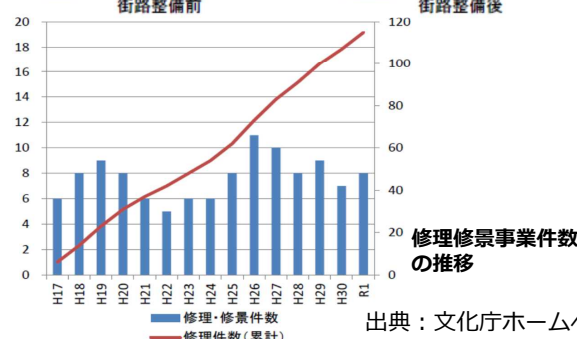
- ・篠山地区及び福住地区では、伝統的建造物等の修理修景事業により、歴史的なまちなみ景観が保全



篠山地区（約40.2ha）



福住地区（約25.2ha）



出典：文化庁ホームページ 11

- ・地区選定をきっかけに、地域団体によりイベントが開催され、観光客数が増加
- ・NPO法人による古民家再生などの保存活動も実施

保存地区の活用とまちづくり

- ・伝統的建造物の修理・修景の進展に伴い、伝統建造物を活用したイベントが増加している。
- ・伝統的建造物の空き家への移住、店舗等への活用などが増えている。



まちなみアートフェスティバル



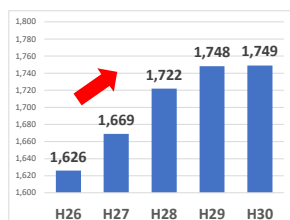
ササマルシェ



住吉神社ビオテラス



丹波篠山ひなまつり



丹波篠山市観光入込客数の推移（単位：千人）

住民等の取組

- ・両地区ともまちなみ保存会が発足し、毎月理事会を開催し、町並み保存活動に主体的に取り組んでいる。
- ・両地区ともに伝統的な祭礼が継承されており、コミュニティの維持に寄与している。
- ・NPOによる古民家再生ボランティアの取組や地域おこし協力隊を中心に、学生と連携した取組など、保存活動の広がりを見せている。



まちなみ保存会



防災訓練



住民による竹林整備



NPOによる古民家再生



水無月祭（福住地区）



竹を活用したバス停修景

出典：文化庁ホームページ資料から抜粋 12

- ・ 県は市町と協調して平成19年度から古民家再生を先導的に支援



再生事例



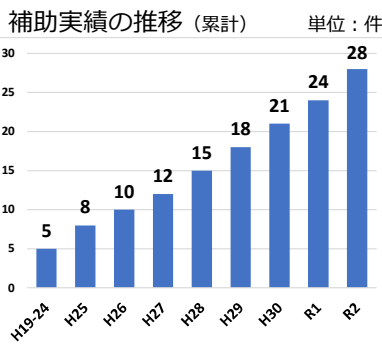
山陽盃酒造
(宍粟市山崎町山崎)

2018年に火災にあった母屋を、酒展示販売・試飲場として再生。地域のにぎわいづくり、街並み保全に寄与



籠邸
(伊丹市伊丹)

軽食を楽しめるコミュニティスペースやコワーキングスペースとして活用



13

景観形成地区等の指定状況

- ・ 県及び市において、景観形成地区などを指定・選定し、景観を保全
(県内の景観形成地区等は108地区 (R3.4.1現在))
- ・ 景観行政団体等は16市で、市による景観まちづくりの動きが活発化



斑鳩地区 (太子町) H24年度指定



高砂地区 (高砂市) H18年度指定



山崎地区 (宍粟市) R1年度指定



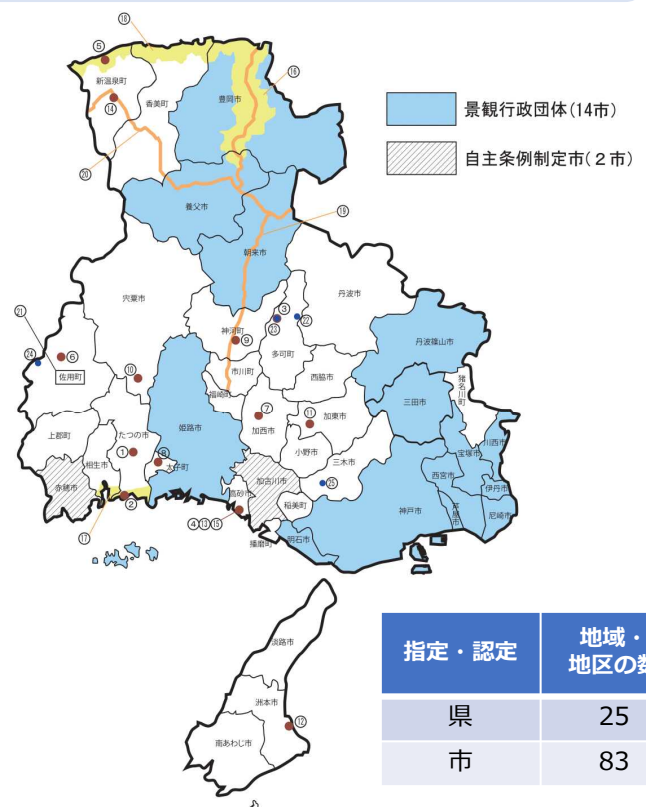
龍野地区 (たつの市) H1年度指定



平福地区 (佐用町) H22年度指定



浜坂味原川周辺地区 (新温泉町)
H19年度指定



14

- ・ 県民参加型の景観資源の発掘や情報発信により、県民の景観に対する関心が高まり、来訪者・観光客の増加が期待される

① 県民参加型の景観資源の発掘

ひょうごの素晴らしい景観を眺められるポイントを公募

応募総数：931 件

インターネット投票
23,699票

ひょうごの景観ビューポイント150選を選定



② SNSを活用した効果的な情報発信



【ルート案内アプリ画面(イメージ)】(地図：国土地理院地図サービスのデータを加工)

ツイッターフォロワー

5,746人

インスタグラムフォロワー

10,590人

出典：パンフレット「ひょうごの景観ビューポイント150選」

15

地域資源

～兵庫県内の文化財件数（文化財保護法に基づくものに限る）～

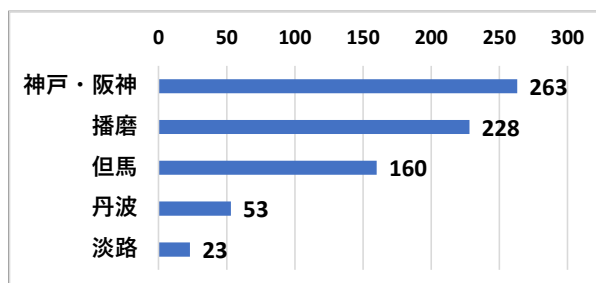
- ・ 県内の文化財件数は、全国上位
- ・ リノベーションが比較的容易な登録文化財の件数は特に多いが、地域で偏り

令和3年6月1日現在

	全国	兵庫県		
	実数	実数	構成比	都道府県順位
国宝（建造物）	228件	11件	4.8%	4位
重要文化財（建造物）	2,523件	109件	4.3%	4位
重要文化的景観	70件	1件	1.4%	15位
重要伝統的建造物群保存地区	123地区	6地区	4.9%	4位
特別史跡名勝天然記念物	164件	1件	0.6%	37位
史跡名勝天然記念物	3,203件	75件	2.3%	15位
登録有形文化財（建造物）	12,966件	707件	5.4%	2位

出典：文化庁HP

登録文化財（建造物）の
地域別件数
(答申ベース)



16

・日本遺産の9件が兵庫県に関連。全国最多。全認定104件（令和2年度現在）



- ① 丹波篠山 デカンショ節・民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶（平成27年）
- ② 古事記の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～（平成28年）
- ③ 播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道（平成29年）
- ④ きっと恋する六古窯—日本生まれ日本育ちのやきもの産地—（平成29年）
- ⑤ 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～（平成30、令和元年）
- ⑥ 「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂（令和元年）
- ⑦ 日本海の風を生んだ絶景と秘境 幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」（令和元年）
- ⑧ 「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼」（令和元年）
- ⑨ 「伊丹諸白」と「灘の生一本」 下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷（令和2年）

日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援

17

地域活性化と景観まちづくり（養父市明延地区）

・鉱山関連遺構や鉱山従業員の社宅が残るまちなみなど、産業遺産（地域資源）の活用により、観光客が増加

鉱山町の景観保全と活用

➢ 鉱山従業員の共同浴場や社宅、鉱山町特有のまち並みを保全しつつ魅力を向上するため、施設を修繕し活用。



明延に7つあった共同浴場の1つ「第一浴場」

・昭和9年に建てられ、鉱山作業員や家族らが無料で利用していた共同浴場を改修し、平成28年に資料館として整備。
・鉱山内外にあった鉱石や消防団の制服、鉱山の図面の複製などを展示。



旧社宅群の公開・活用

・住民、NPO法人、行政等の協働により、かつて立ち並んでいた旧北屋長屋社宅に、当時の生活を再現。
・古い家賃やこたつなどを設置し公開するなどイベントで多用途に使用。

一元電車の復活運行

➢ 開山とともに廃止され、市に寄贈された鉱山鉄道（一元電車）を、地域住民と行政・ボランティアにより、復活。
➢ 現在では運転士の育成、約70mの常設軌道の整備により月1回の定期運行が可能となった。



鉱山採掘当時の一元電車



イベントの様子

常設軌道の体験乗車会

地域活性化と賑わいづくり

➢ 地域住民やNPO法人等との協働により、現存する鉱山関連施設を保全するとともに地域の魅力として広く発信。
➢ 地域が一体となって景観形成の取組を実施。



探検坑道の案内

・明延鉱山の歴史・文化を次世代に伝えるため、地域住民がガイドクラブを設立。
・行政は、明延鉱山から坑道の一部を借り受け鉱山学習施設として整備。
・ガイドクラブが坑道を案内。



旧北屋長屋の修繕

・平成25～26年に旧北屋長屋社宅4棟の修繕を実施。
・ボランティアを募り、地域住民、NPO法人、学生が参加し、屋根のペンキ塗りや周辺の除草など修繕作業を実施。

施策の効果

近代化産業遺産
平成19年度 経済産業省

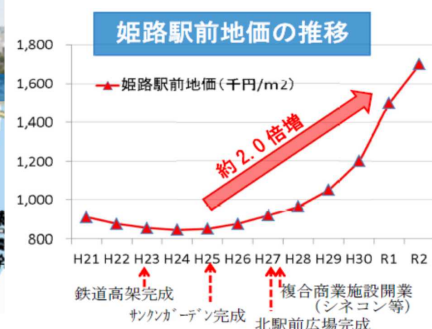
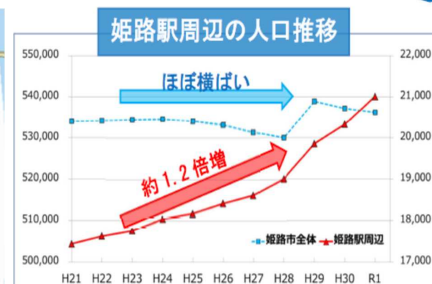
「明延鉱山探検坑道（旧世谷洞洞坑）」
「明神電車（一元電車）と蓄電池機関車」
「明盛共同浴場（第一浴場）建屋」が、生野銀山（朝来市）とともに経済産業省の近代化産業遺産群33に認定された。

日本遺産
Japan Heritage

平成29年4月28日に、養父市の明延鉱山・中瀬鉱山を含む6市町にまたがる「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」のストーリーが文化庁の日本遺産に認定された。



- ・市街地整備手法を活用し、魅力ある駅前空間として再整備
- ・駅周辺人口が増加し、駅前地価も上昇



19

- ・住宅・商業施設・公益施設、駅前空間の再整備により、中心市街地の賑わいを回復
- ・中心市街地の人口が増加し、歩行者等も増加



従前



竣工後

中心市街地における持続的な賑わいの創出

公共公益施設の整備や住宅の供給により、大規模小売店舗の撤退等により低下した賑わいの回復

駅前の交通結節機能の向上、周辺地区への回遊性の向上

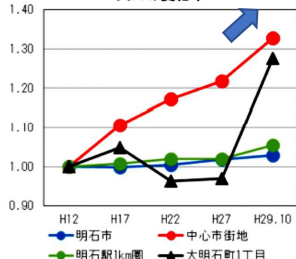
駅前広場や歩行者デッキの整備により、交通機能の円滑化や歩行者の安全確保、魚の棚商店街への回遊性の向上

H24～28年度の6年連続で人口約5.2万人増加、それに伴い、個人市民税収は10億円増

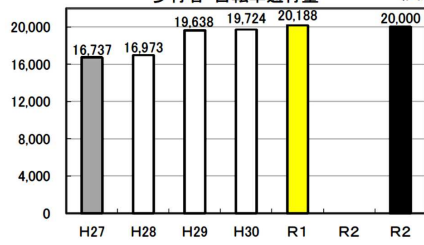


出典：広報あかし（令和元年8月15日）

人口の変化率



歩行者・自転車通行量 (人/日)



◆新旧の公共公益施設の利用状況

旧市立図書館 (H26)	275,921 人/年
あかし市民図書館 (H29)	943,835 人/年
旧支援センター (H26)	38,304 人/年
あかし子育て支援センター (H29)	130,664 人/年
旧駅前サービスコーナー (H26)	63,445 人/年
あかし総合窓口 (H29)	130,347 人/年

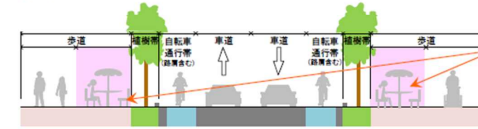
20

- ・賑わい創出・地域活性化に資する道路空間の魅力的な活用として、神戸市・姫路市において、**全国初の歩行者利便増進道路「ほこみち」を指定**（R 3. 2）

ほこみちとは

賑わいのある道路の構築のための道路の指定制度です。

制度のPoint



Point①
歩道等の中に“歩行者の利便増進を図る空間”を定めることが可能

Point②
特例区域では道路空間の活用を柔軟に許可

Point③
道路空間を活用する者の公募による選定が可能
その場合、最長20年の占有が可能



21

商店街の活性化とまちの再整備によるにぎわいのまちづくり

- ・商店街の活性化をまちづくりの観点から捉え直し、**商店街とその商圈となる周辺住宅地において、商業者と地域住民等が実施するまちなか再生の取組が進行**

■ 畑原市場の再整備【水道筋区域（神戸市灘区）】

店舗の減少や建物の老朽化が進む市場を、民間分譲マンション及び店舗付戸建住宅用地に再整備

<小規模再開発支援事業(住宅市街地総合整備事業(密集市街地総合防災事業))>

【整備前】 畑原市場

営業店舗：22店舗中12店舗(整備地区内)

※うち5店舗が水道筋内で移転

※4店舗に対して商店街活性化事業により移転費等を補助

【整備後】 分譲マンション等

建物用途：分譲マンション99戸 戸建住宅用地4区画

施行面積：約0.23ha

事業期間：R2～R5

事業費：約36億円

補助額：約1.3億円



整備前(畑原市場)



整備前(事業予定地)



整備状況

まちなか再生区域名	所在地	指定時期
水道筋区域	神戸市灘区	平成27年8月
育田・元町区域	豊岡市	平成28年3月
伊丹サンロード区域	伊丹市	平成29年3月
東山・ミナイチ区域	神戸市兵庫区	平成29年10月
洲本外町区域	洲本市	平成30年4月
ono800(おの800)区域	小野市	平成31年4月
杭瀬区域	尼崎市	令和2年6月

・住宅ストックの有効活用や地域の活性化を促進するため、空き家改修を支援

改修事例

廃村集落の空き家 6 棟を活用し、宿泊施設・交流施設として改修
自然環境を生かし、都市部からの客を呼び込み、地元住民との交流を図る



【建物所在地】佐用郡佐用町若州



空き家活用支援事業

活用が可能な一戸建て住宅の空き家又は共同住宅等の空き住戸を、住宅、事業所、地域交流拠点として活用するための改修工事費の一部を県と市町が協調補助。（補助限度額は、関西府県で最大）

種 別		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	計
住宅 型	一般	17	15	30	45	12	18	26	25	188
	若年・子育て	—	—	—	—	14	12	20	33	79
事業 所型	一般	—	—	6	2	1	0	4	5	18
	UJIターフ	—	—	—	—	—	—	—	—	0
地域交流拠点型		—	—	3	1	1	3	1	9	18
計		17	15	39	48	28	33	51	72	303